



○原発事故の怒りを、「署名」の形で表現しましょう！勇気をふるって集めましょう！

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.171

2011(平成23)年 9月11日(日)発行

○8月7日、第35回全国高校総合文化祭閉幕式(会場:會津風雅堂)創作劇中の、福島の高校生の言葉○

「福島に生まれて、福島で育って、福島で働く。福島で結婚して、福島で子どもを産んで、福島で子どもを育てる。福島で孫を見て、福島でひ孫を見て、福島で最期を過ごす。それが私の夢なのです」



毎年夏、全国高校生文化部の祭典が、各県持ち回りで開催されています。ところが今年、「福島県」が当番で、大震災と原発事故で混乱の中、8月3日から7日まで、県内の中通りや会津を会場に成功裡に開催。閉幕式での左の言葉が、9月十三日の野田佳彦総理の所信表明演説にも取り上げられました。

◆事故の責任者たちは、高校生この言葉をどう受け止めるのでしょうか。

「子どもたちが安心して暮らせるまちに」の署名にご協力ください！

- 「はらまち九条の会」「小高九条の会」「鹿島九条の会」「相双教職員九条の会」では、原発事故による放射能汚染から子どもたちを守るため、除染の早急な徹底を促す下記の「要求書」を、総理大臣はじめ各関係機関長へ提出することになりました。つきましては、「要求書」に添付する「署名」を早急に数多く、10月20日まで集約し提出したいと思っておりますので、ご協力ください。
 - インターネットのホームページ「はらまち九条の会」でも署名ができるように準備中です。
 - 署名する方は年齢・男女・居住地を問いません。様々な方にお願いしましょう。
 - 署名用紙は1枚をこの会報と同封します。恐れ入りますが、不足の場合は各自でコピーしてください。
- 署名は10月20日の期日厳守で、事務局井上由美(〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43 TEL0244-22-7511・FAX0244-26-0892)まで、郵送か、ファックスで、お願いいたします。

内閣総理大臣・原子力災害対策本部長	野田佳彦様	福島県知事	佐藤雄平様
東京電力株式会社社長	西澤俊夫様	南相馬市長	桜井勝延様

要求書(要望書)
南相馬市の子どもたちが安心して暮らせるまちにするための対処を要求します。

南相馬市内全域の生活環境が一刻も早く、平常時の一般人の被曝限度量とされる年間1ミリシーベルト(1時間0.114マイクロシーベルト)以下になるよう除染し、子どもたちが安心して暮らせるよう対処することを、原因者である国と東京電力に対してつよく要求します。

2011年 9月 日 南相馬市 はらまち九条の会 代表 平田慶華

総理と東電社長には「要求書」も、知事と市長さんには「要望書」も提出します!

小高九条の会	代表	佐藤鶴雄
鹿島九条の会	代表	相良正巳
相双教職員九条の会	代表	加藤憲男

<要求の理由>

国は緊急時避難準備区域の指定を解除する方針とすることです。この方針は望ましい方向へ事態が進展していると歓迎すべきであるかもしれませんが。しかし指定解除の根拠が客観的に納得できる数値によって示されなければ、受け入れがたいものと考えざるをえません。

一般人の平常時年間被曝限度量は1ミリシーベルト(1時間あたりに換算すると0.114マイクロシーベルト)とされています。

一方で、医療機関等では、1時間あたり0.6マイクロシーベルト以上の区域を放射線管理区域として、18歳未満の者の立入を禁止しています。また、原発労働者の白血病労災認定基準として年間5ミリシーベルト(1時間あたりに換算0.57マイクロシーベルト)を設定しています。被曝リスクに閾値(いきち)はな

いとされているものの、このあたりの放射線量を職業的被曝の限度として考えているのでしょうか。

原町区教育委員会所管施設(屋外地上1cm)の空間放射線測定値によると、0.6マイクロシーベルト/h以下なのは36カ所中7カ所だけです。また、市部局が測定した市内40カ所(地上1cm)の放射線量値も0.6マイクロシーベルト/h以下なのは12カ所だけです。しかも、これらの全測定点で0.114マイクロシーベルト/h未満なのは鹿島区の4カ所だけです。(2011年9月14日現在)

成人と比較して子どもは3~10倍ほど放射線に敏感だとされています。現在、市内には数千人超の学齢者が居住し、幼児もいます。このままでは、子どもたちの将来の健康が危ぶまれます。未来に対し責任を果たせるまちにするため、わたしたちは関係機関に対しそのすみやかな対処をつよく要求します。



太陽と風、大地、自然の恵みをエネルギーに!

さようなら原発100日アクション



また、2「さようなら原発・全国一千万署名」にもご協力ください!

要請事項

1. 原子力発電所の新規計画を中止し、浜岡をはじめとした、既存の原子力発電所の計画的な廃炉を実施することを求めます。
2. もっとも危険なプルトニウムを利用する、高速増殖炉「もんじゅ」および核燃料再処理工場を運転せず、廃棄することを求めます。
3. 省エネルギー・自然エネルギーを中心に据えた、エネルギー政策への転換を早急に始めることを求めます。

呼びかけ団体/呼びかけ人

「さようなら原発」一千万署名 市民の会
 呼びかけ人 内橋克人 大江健三郎 落合恵子
 鎌田慧 坂本龍一 澤地久枝
 瀬戸内寂聴 辻井喬 鶴見俊輔
 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11
 総評会館1階 原水禁気付
 電話 03-5289-8224 FAX03-5289-8223

2011年(平成23年)9月20日(火) 14版 毎 日 新 聞



今こそ、福島県民・南相馬市民の怒りを行動に表しましょう!
 原発推進派の大新聞やテレビ局が報道しなくとも、今日日本中で、脱原発の歴史的なうねりが起っています。

福島県南相馬市を離れ、川崎市に妻と娘、孫の4人で避難している元教師の山崎健一さん(65)は「福島に暮らしている人以外にも、原発問題にもっともっと関心を持ってほしい。原発政策、脱原発を日本全体で考えてほしい」との思いで集会に参加した。南相馬に戻りたいが「1歳の孫を思うと、除染が完全に終わらない限り安心

東京都内で19日午後開かれた原発依存からの脱却を求める「さようなら原発5万人集会」やパレードには多くの市民が参加した。故郷の福島を離れて避難している人や、事故をきっかけに初めて問題意識を持った人も目立った。
 【長野宏美、山田奈緒】

脱原発集会

避難者も叫び

日本全体で考えて/まだ隠しているのでは

「安全」うそだった



報告 (小高区・青田利幸)

行動を起こしましょう!

9月19日(月)東京・明治公園へずっとさいたま市に避難していますが、19日、事務局長の山崎さん夫妻と明治公園での「さようなら原発5万人集会」に参加。これまで私が参加した集会では見たこともない大勢の人に驚き、小高から避難している知人や、原町や相馬市からバスでやって来た人々にもたくさん会いました。

ステージ上の大江健三郎氏や内橋克人氏、澤地久枝さんや落合恵子さんをすぐ目の前に見て、俳優山本太郎さんも飛び入りで「脱原発」をアピール。福島みずほ社民党主とチャッカリ写真を一緒に撮りました。

手作り看板を掲げて、原宿から渋谷のNHKホール前までパレードしましたが、沿道の人々や車から手を振ったり列に加わる若者もいて、これまでとは違う手応えを感じています。皆さんも一緒に行動を起こしましょう。



脱原発を訴えてモ行進する市民ら
 一東京都渋谷区で19日、小林努撮影

